

# 木材ニュースレター

(財)日本木材総合情報センター  
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

## 木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(22年5月分)

1. 調査実施期間 平成22年 4月20日 ～5月10日

### 2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

5月分の回答企業数は44社、回収率は93.6%である。

### 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

### 4. 調査結果の概要

#### (1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		22/5月	6月	7月
仕入動向	国産材	4.4	4.4	△ 4.5
	外材	△ 6.1	9.8	△ 1.3
販売動向	国産材	△ 1.5	5.9	9.1
	外材	△ 2.4	8.5	7.5
在庫動向	国産材	△ 7.4	△ 5.9	△ 6.1
	外材	△ 22.4	△ 18.4	△ 10.8

仕入は、国産材、外材とも先行きプラスから小幅マイナスと、梅雨期にも関わらず堅調である。

販売は、国産材、外材とも先行きプラスと回復基調の動きになっている。

在庫は、国産材ほぼ変わらず、外材は、大きなマイナス幅縮めて適正規模化してきている。

#### (2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	22/5月	6月	7月
スギ正角(グリーン)	0.0	0.0	4.2
スギ正角(KD)	1.9	3.8	4.0
ヒノキ正角	1.9	0.0	0.0
ヒノキ土台角	0.0	1.9	0.0
米ツガ正角(現地挽)	3.8	3.8	3.8
米ツガ防腐土台角	0.0	1.9	2.0
米ツガ割物(現地挽)	5.8	5.8	6.0
米マツ平角	17.3	11.5	4.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	11.5	11.5	8.0
ホワイトウッド集成管柱	51.9	35.2	13.5
レッドウッド集成平角	47.6	35.7	19.0
型枠合板(国産)	39.6	22.9	10.9
型枠合板(輸入)	50.0	27.1	13.0
針葉樹合板	45.7	21.7	13.6

スギ正角(グリーン、KD)、ヒノキ正角、土台は小幅なプラスからゼロとほぼ横ばい。

米ツガ正角、割物、防腐土台角いずれもプラス、ゼロで全く安定。米マツ平角は先行きプラス幅を縮めるが強含みに変わりにない。北洋アカマツタルキは品薄感でプラス基調。品不足によりWW集成管柱はプラス幅を縮めたものの好調である。RW集成平角もプラス基調。

合板(針葉樹含む)はプラス幅を縮めたが、いずれの合板もプラス基調で推進している。

価格動向の全因子がプラスないしゼロとなり、価格が大きく好転していくことが窺える。

1. 荷動き	
仕入動向	<p>米マツ一般材丸太では、米国产丸太輸出価が全グレードで値上げ。特に尺下の値上げ幅が大きい。カナダ材も同様に全てのグレードで強くなっている。中国の買いは相変わらず旺盛で、全グレードに及んでいる。スプルー等丸太は出材少なく、問屋は手当てに苦慮している。(東京:米材問屋)</p> <p>流通の劇的変化から米加材のシェアが急激に変化している。米ツガ→国産スギなどが顕著な傾向である。(東京:米材問屋)</p> <p>米材入荷は変わらず、北欧は入荷遅れのため減少(5月)。(東京:米材問屋)</p> <p>4月は仕入れが多かったのが今月は控える。(東京:外材集成材問屋) 集成材が値を上げている。(東京:米材問屋)</p> <p>諸外国の買い付けは相変わらず底固く日本向けの生産には消極的。中国は連休のために生産は一時的に減少。(東京:南洋・中国材問屋)</p> <p>外材に引っ張られて、いくら強含み。丸太は既に高くなりつつある。(東京:国産材問屋)</p> <p>現地の丸太不足気味で工場への入荷減。(東京:南洋材問屋) 端境期に向い出材は減少する。(東京:国産材問屋)</p> <p>最近では産地に行かずとも近隣の市場で用が足りる。産地も売行き悪く、大都市圏の市場業者に委託材をかなり送ってくるようだ。(東京:国産材問屋)</p> <p>丸太価格上昇、生産量も増えず、製品価格強含み。(東京:国産材問屋)</p> <p>北欧材の品薄状態が続く。WW管柱、RW平角は毎月値上がり。しかし国産材にシフトしている様子も見られず、スギ・ヒノキの荷動きはあまり見られない。(東海:外材問屋)</p> <p>WWの仕入れ単価が上がったが、売値に乗せられるかどうか。(東海:外材問屋)</p> <p>2,3の客筋で動きが出ており、5月は少し良くなると思う。(東京:仲買小売) 仕入れを極力抑えて我慢。(東京:仲買小売)</p>
	販売動向
在庫動向	<p>米マツ一般材丸太の京浜での在庫は旧材が一掃され、問屋の不良在庫は見当たらない。(東京:米材問屋)</p> <p>WW在庫が極端に無い状況。(東京:米材問屋) 漸減傾向で変化は見られない。(東京:米材問屋)</p> <p>在庫減りつつあるが積極的に買えず。(東京:国産材問屋) 在庫は適正水準を割り込みそう。(東京:南洋材問屋)</p> <p>7月決算なので今月より在庫調整を行う。(東京:外材集成材問屋)</p> <p>4月の入荷量は一時的に増加したが、埠頭での荷余り感はない。産地の日本離れで数ヶ月間全く入荷の無い製品もある。(東京:南洋・中国材問屋)</p> <p>集荷したくも集まらない材もあり、欲しい材は少な目。(東京:米材問屋) 在庫は極力控える。(東京:仲買小売)</p> <p>ここ1~2年の扱い量に合わせ倉庫スペースを削減したため、必要最小限の在庫量。(東京:仲買小売)</p>
	2. 価格動向